

# 「曽爾こめづくり実習」を通して 農地を守る新たな担い手づくり

～ 一般社団法人曽爾村農林業公社～

## 増え続ける水田の管理依頼

曽爾村の基幹産業である農林業を次世代へ受け継ぐため、2016年に設立された曽爾村農林業公社では、村外から来た新規就農者の育成や、村内の水田を一時的に借り受け、直営ほ場として管理することで、水田の荒廃化を未然に防止し、次世代の新規就農者などに継承する取組を行ってきました。近年、村内の農業者の高齢化が進み、米づくりの継続が難しくなったため、同公社へ管理を依頼する水田が増え続けています。

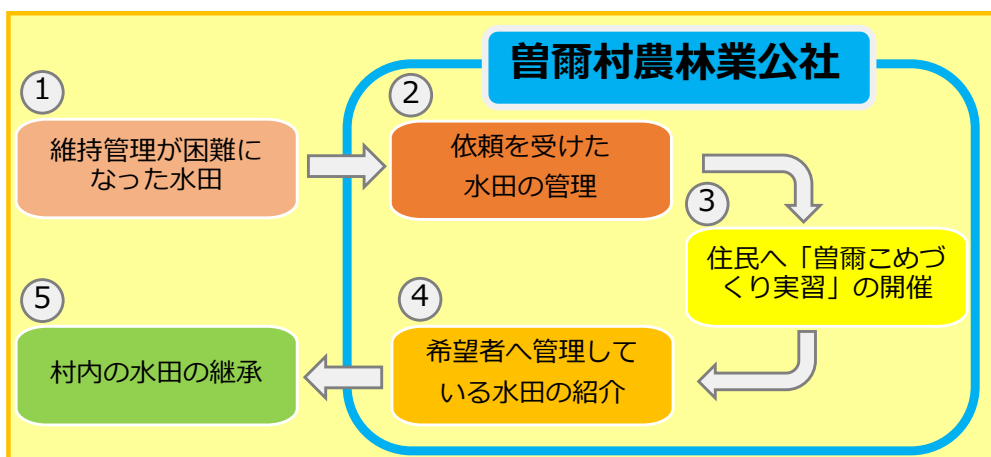


田植機実習（5月）

## 一人でも米を作れるようになってもらいたい

その一方で、住民の中には、自家用に米づくりをしたい方、他の仕事をしながら販売用に米づくりをしたい方、同公社のオペレーターを希望する方など米づくりへのニーズは高まっています。

これに応えるため、同公社では、直営ほ場を活用し、田植えや稲刈り、除草作業などの米づくりのノウハウ、田植機やコンバインなどの農機具の操作方法、地域で水田を管理する上で大切なことなど、共に作業しながら覚えてもらうことを目的とした「曽爾こめづくり実習」を令和7年から開催しています。初年度となった昨年は22回の実習を実施し、参加人数は延べ40名でした。



除草実習（6月）



コンバイン実習（9月）



## 多様な人材で曽爾の水田を守る

これからも、「曽爾こめづくり実習」を通じて米づくりの技術を習得した受講者が村内で就農したり、オペレーターに登録されることで、同公社の職員だけでなく、多様な人材で水田の保全を担い、地域ぐるみの保全体制を構築することで、曽爾村の水田が次世代にバトンタッチされる流れを築くことを目指しています。

【問合せ先】 一般社団法人 曽爾村農林業公社

TEL 0745-96-2112 <http://soni-agriforestry.jp/>（外部リンク）